

地域づくりインターン活動紹介 芳川地区

2期生 伊藤 実沙子

1. 活動背景

芳川地区は、農、工、商業が盛んで、交通拠点としての役割も持ちます。また、教育施設や医療機関も地区内に集約されており生活しやすいため、若い世代の方も移り住むことが多く、人口が増えています。

当地区は、広い地区のわりに町会数が少ないのが特徴の一つです。芳川村の名残で、旧四村（村井、小屋、野溝、平田）からそれぞれ派生して、現在は8つの町会を有しています。各町会が独自性を持ち、活動が行われています。

多様な人が混在して生活する環境にあるため、コミュニティの在り方や、次世代の担い手の育成が課題になりますが、各町会の特色を活かした地域づくりをしています。

2. 活動紹介

①幅広い世代に対応した事業

赤ちゃんから、お年寄りまで幅広い世代が暮らす当地区では、各ライフスタイルに合わせて様々な活動をしています。

小さな子どもを持つ親子を対象に、子育て支援事業や食育学級等行っています。食育学級は、地区で活動する保育ボランティア団体の会員さんの畑をかりて、食物を植えて、育て、食べるという一環した活動を年間で行っています。

小学校、中学生には、“自分で考えて行動できる”ことを目指した事業を展開しています。小学生は「自分でやってみる」ということで、科学や料理等に触れる機会をつくり、中学生は「一人の“大人”」として企画の運営にも関わってもらっています。



写真1 : 食育学級
(野沢菜収穫作業)



写真2 : キッズクッキング



写真3 : 芳川地区防災訓練

シニア世代を中心に、趣味を活かしたサークル活動やサロン、健康維持のための運動など行いながら、互いに協力し合える仲間作りにつながる事業も多く行っています。



写真4 : 楽笑レクゲームの集い

②世代を超えた交流事業

時代の流れとともに暮らし方も変化し、三世代家族が減りつつあり、地域に伝わる文化を知る機会がなくなってきました。文化を伝えることと、普段関わりの少ない世代同士で互いに教えながら一つの物事に取り組むことによって、互いにより刺激になると考えて実施しています。顔見知りが増えることで、地区や町会で声をかけ合える関係の構築にもつながると思います。また、地区の行事の際、終わった後に食事会を実施したり、町会でもご飯会を実施しました。



写真5 : 世代間交流
(正月遊び)



写真6 : 平田でごはん
(肉まんづくり)

3.地区課題解決に向けて

当地区は8町会を有しています。歴史の長い町会、開発されて新たにできた町会があり、人数構成、住民の年齢層にもばらつきがあるため、一律に地区の課題として取り組むことが難しいです。

更に、宅地造成が盛んに行われていることもあり、ますます地区の人口は増えています。地区の都市化が進む一方で、住民同士のつながりは薄くなっています。このことは、地区・町会の大きな課題になっています。

子どもが多く生まれている地域でもあるので、子どもを通じた住民同士の交流や、常会等のより小さな単位ごとでの住民同士の関係性構築が大きな地域にとっては有効に働くのではないかと考えます。地域の方々が自ら動ける仕組みができていけばと思っています。

地域づくりインターン活動紹介 新村地区

2期生 一色 美月

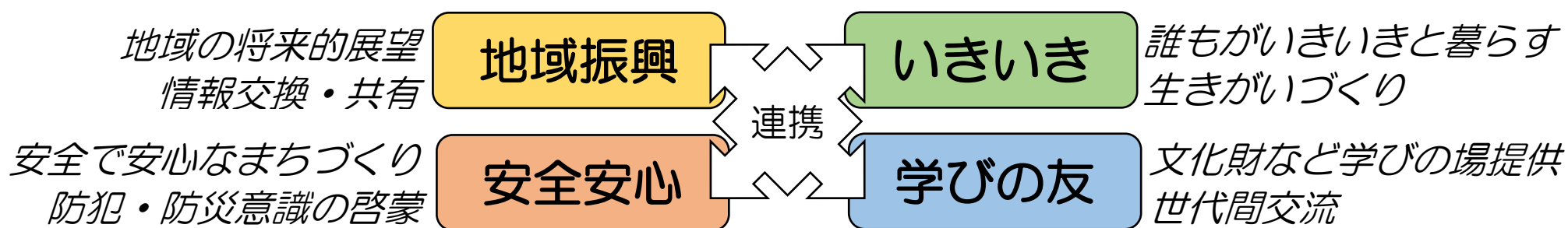
1. 活動背景

新村地区は、松本市のほぼ中央に位置しており、国道158号線と上高地線が東西に横断する田園地帯です。平成19年に「自主防災モデル地区」に指定され、地区防災に意欲的に取り組んできました。しかし、平成30年度現在、高齢化率は34%を越え、災害時の対応をスムーズに行えるかが課題です。

地区内には松本大学が所在し、平日には多くの学生が勉強しています。地域と大学の連携として、防災対策など大学との繋がりが期待されており、地域づくりインターンとして松本大学と連携する事業や、あたらしの郷協議会の活動を中心に行いました。

○地域づくり協議会「あたらしの郷協議会」

平成27年3月に発足し、4つの部会が活動しています。



2. 活動紹介

①できることもちよりワークショップ



事例を基に、生活に困難を抱えた方に“できること”はないか考えるワークショップを行いました。

平成28年度に研修を受け、新村地区で実施し、平成29年度は開発者の指導のもとワークショップの形式を変更し、時間を短縮して2回実施しました。

身近な課題を反映するために地域包括担当と連携し、民生児童委員を中心に話し合いました。

②高齢者の居場所づくり

いきいき部会では、長寿会の解散などを受け、高齢者の居場所づくりとしてふれあい・いきいきサロンの推奨を行っています。

「認知症を学ぼう！シリーズ講座」の開講、地区内サークル絵手紙の会、民生児童委員と協力して「いきいき通信」の配布、男性の集いの場として「メンズサロン パティオ・にいむら」等、学びの機会、生きがいつくりの策を講じています。

③地区防災



指定避難所である松本大学と協力して訓練を行っています。

①要請を受け、無線機を持った学生が大学から本部（新村公民館）に参集。地図を受け取り、各町会（一時集合場所）へと移動し、無線機を使って安否情報を報告する訓練を実施。



②保育園から本部に応援要請が来た想定で、本部から周辺住民、大学生に応援要請、保育園児を指定避難所まで避難誘導する訓練を実施。

③中学生が消火栓を実際に開ける・閉める、ホースを持ち放水するという放水体験の実施。



④避難訓練の時間を知らせず、防災無線放送のみで避難を開始する訓練を実施。

また、自主防災連合会の役員を中心に避難所運営委員会について検討をしています。

地域づくりインターン活動紹介 庄内地区

3期生 中島 麻衣

1. 活動背景

庄内地区は土地区画整理事業等による大型商業施設や宅地造成等、新しいまちづくりが進んでいる地域です。

地区では課題解決に向けて「庄内地区まちづくり協議会」が平成26年に発足し、今年度は、昨年度に引き続き『防災』と『地域包括ケア』に力を入れて取り組んでいます。

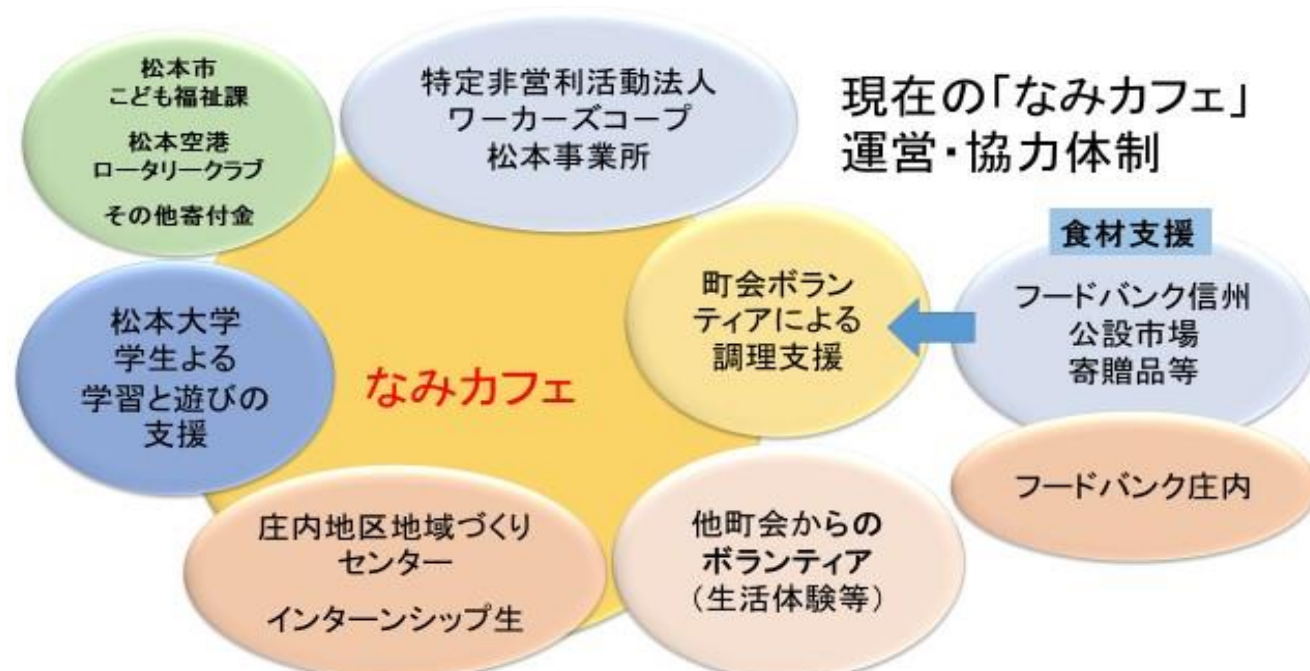
また、地区公民館には「子育て委員会」という独自の委員会があります。母親の息抜きや他の親子と交流できる取り組み、子どもが主体のイベントなどが多数あり、地区をあげて子育てに力を入れていきます。

2. 活動紹介

①子どもの居場所事業「なみカフェ」

町会住民が主体となり週1回ペースで開かれる「なみカフェ」は、NPO法人や松本大学など多くの方々関わっています。

子どもたちが多くの人と出会い、成長する上での気づきや学び、考えるきっかけづくり、そして主体性を育めるよう、子どもに寄り添いながら様々な“体験”を大切にしています。



今年度は、地区公民館でのフードバンク活動による食材支援や、地域の達人に生活体験の場で講師になってもらうなど、地区の皆さんからの協力も増えています。



地域の方に書き初めを教えてもらいました。初めて筆をもった子や、書き初めの宿題を見てもらう子もいました。

いただいた食材を主に、町会スタッフが家庭料理を作ってくれます。会話も弾み、子どもたちの笑顔も溢れます。

②新たな集いの場づくり

地域住民から「自分の地域にも気軽に集まれる場がほしい」と声が挙がり、今年度2町会で新たにサロンが立ち上がりました。

オレンジカフェを実施している住民がアドバイザーとなり、打ち合わせからサロンの立ち上げ、運営の協力をしています。

私も一連の過程に関わらせていただく中で、住民の声から取り組みが始まり、それに共感・協力してくれる人がいること、そして継続していくことの大切さを感じています。



サロン「おいでや」
認知症の人でもそうでない人も集まり、一緒に楽しい時間を過ごします。町会外の方も見えています。

おしゃべりサロン「^{いよりあん}居寄庵」
3月に第1回目開催を控えています。写真はプレ開催の様子です。手作りの漬物やお菓子が並びました。

地域づくりインターン活動紹介 寿地区

3期生 小林 克紀

1. 活動背景

寿地区は松本市街地から6kmほど南方に位置している地区です。人口は市内で5番目に多く、町会数は12あります。農業地と住宅地がバランスよく混在している地区となっています。

地区の特徴としては「子どもは寿の宝、地域の子どもは地域で育てよう」を合言葉とした寿地区学校応援団事業の活動が盛んに行われていることです。

2. 活動内容

① 寿地区地域づくり協議会 児童福祉部会の取り組み

今年度の初めに部会のテーマを決めるために、部会員でワークショップを実施しました。その結果として今年度は「子どもの見守り」をテーマとして活動を進めています。まずは実態把握をするため各町会の見守りに関するアンケート調査を行いました。この調査結果をふまえて、今後の活動を部会員と検討していく予定です。

また、民生児童委員協議会と合同で筑摩野中学校への学校訪問を行い、校内の見学と先生方との意見交換を行いました。



児童福祉部会でのワークショップの様子です。
協議事項は地域づくり協議会全体で共有します。



学校訪問後に意見交換会を行い、現状や日頃感じることについて話し合いました。

② 「にこにこルーム応援隊活動」

寿小学校の多目的教室を会場として2時間目休みに児童と地域ボランティアが昔ながらの遊びを通じた世代間交流を行っています。

この活動が始まったきっかけは、寿小学校のPTA役員から子ども会育成会長に「子どもの居場所がほしい」という相談があったことです。20分間という短い時間ではありますが、交流を楽しみに多くの児童、ボランティアが集まれる場となっています。



毎月第2金曜日と第4金曜日に実施しています。

活動終了後にはボランティア同士でお茶会も行っています。

③ 子どもの居場所づくり事業「えがおの会」

寿田町町会が主催となって、月に1回のペースで行われています。内容は学習支援、食事提供、生活体験、生活相談が行われており、そのうちの学習支援と生活体験に関わっています。

年齢関係なく参加できるため、小学生だけでなく未就学児も参加できる「子どもたちの交流の場所」となっています。



子どもたちは、10時に集合し1時間勉強して

生活体験をしたら昼食をみんなで食べます。

昼食を食べ終わったら、帰りの会をして

13時くらいに解散します。

地域づくりインターン活動紹介 本郷地区

3期生 榎石 和直

1. 活動背景と地区紹介

本郷地区は、松本市の東北に位置し中心部には古い歴史を持つ浅間温泉があります。人口は約1万5千人で面積の83%が山地で、自然に囲まれています。浅間温泉は信州まつもと空港から約15km 松本駅より約5km、標高は約650m の位置にあたります。私はそんな本郷地区で、人とのつながりを主題に地域サロンのビデオ制作やボランティアの方を対象にした交流会や講座の企画などをテーマに活動してきました。

2. 活動内容

①サロン紹介ビデオクリップの制作

本郷地区では、地域住民が気軽に集える交流の場としてサロン活動が活発に行われています。このサロン活動は、昨年までに7ヶ所開催されました。そして平成30年度からは新たに3ヶ所でサロンが立ち上がり現在では、10ヶ所での開催になりました。各サロンの立ち上がりの経緯としては、それぞれの町会の住民さんらの要望がきっかけとなったものがほとんどです。そうした中、サロン活動を誰でも客観的に見ることのできるコンテンツとして、ビデオクリップの制作を行なってきました。このビデオは本郷地区の情報共有のひとつとして活用されています。



民生委員研修会では本郷地区のサロン紹介として活用されました。



実際に制作、配布した本郷地区サロンのビデオクリップのDVD。

昨年行われた地域ケア会議ではサロンを題材に活動発表がされました。



②読みきかせ講座の実施

本年度では新たな企画として地域サロンの場で高齢者向けの読みきかせを行ないました。サロンの中で読みきかせを企画したのには対象となる高齢者の方達が「童心に戻って楽しんでもくれるのではないか」という狙いからでした。好評のなか終了したこの企画は、地区でボランティア活動をされる方達から「せっかくの機会だから読みきかせの技術も自分たちで身につけたい」という意見がでました。そこで全2回の講座として12月8日と1月29日に読みきかせ講座を開催する運びとなりました。当日は講師を招き、読みきかせに適した絵本の選び方や、読み方のコツなどを中心に学びました。



紙芝居の実演をふまえ解説が行なわれました。

読みきかせを行う上での声の出し方、文章の読み方のポイントのお話。



絵本の選び方やポイントなどの説明の様子

3. 今後の取り組み

本年度で私は、地域づくりインターンとして2年目を迎えました。これまで取り組んできたビデオクリップ制作などの既存の事業に加え、新たに講座の企画などを行うことができました。3年目の最終年度に向けては情報発信だけでなく、地域の方からの「〇〇に興味があるから学んでみたい」や、「〇〇の活動に参加するにはどうしたらいいか」など「生の声」をより大切にしたい取り組みを心がけ、地域住民同士の「つながり」を意識した本郷地区での仲間作りや新たな関係作り、居場所作りの一端に携われるように積極的に活動を行っていかねと考えています。

1. 活動背景

私は中心市街地である第一、第二、第三、中央、城北の5つの地区を担当しています。それぞれの地区が特色を生かし、地域課題の解決に向けて取り組んでいます。中心市街地には松本城を中心に、松本を支えてきた文化・歴史が多く遺されています。

私は従来までのインターン生と異なり、複数地区を担当することとなったため、中心市街地としての新たな連携を生み出すことを目標に地区事業や講座に携わっています。こうした活動の中から、地区の新たな現状や中心市街地を取り巻く共通の地域課題を把握し、中心市街地の新たな連携を生み出すために取り組んできました。

2. 活動紹介

①地域事業への参加

各地区の様々な行事や会議などに積極的に関わらせてもらっています。それぞれの地区でどのような問題が取り上げられ、解決に向けて動いているのかを把握したうえで、その中からインターンとして関われることを見つけ出し、取り組んできました。



城西花壇の花植えでは中央地区の方と協力して植え替えを行いました。ボランティアとして花壇の手入れをしている住民の方などの熱心な取り組みを知ることができました。

第一地区では子供向けの歴史探訪に参加し、城下町としてどのような発展を遂げたかを、世間話を交えながら学びました。



附属中学校の生徒さんと地区の方との交流をふまえたまち歩きを行い、地区の歴史や現状などを学びました。



②松本神社ようこく朝市（H30 6～11月 第四日曜日開催）

周辺に買い物環境がないという共通の課題を抱えた松本城北側の4町会などが協働して開催している朝市で、荷物の運搬や運営のサポートを行っています。休憩所や配達サービスを設けることで、誰でも気軽に買い物に来ることができます。農産物を提供してくださる四賀地区や今井地区の方との交流が生まれるなど、単に買い物支援だけではなく、地域交流の発展の機能を果たすことができています。



四賀や今井の農家さんが
新鮮な農産物を販売



市に来た住民の方々や農家さん
などが交流を行う休憩所

リヤカーを使った購入品
配達サービスも実施



③「城南あさ市」（平成30年 11/10）

ようこく朝市を参考に、松本城南側の7町会が朝市を試行しました。

買い物支援や地域内交流だけではなく、今井、四賀地区の生産者や、松本を訪れる観光客との交流にも発展する可能性を持っており、今後も地域に定着するよう取り組んでいます。



④昭和の松本を語る会

松本大学と共同で行っているプロジェクトで、松本市の昭和期の風景写真を活用し、高齢者の方から、当時の思い出を自由に語ってもらいながら、学生と交流し、くらしの記録を残す会です。



地域づくりインターン活動紹介 中心市街地

4期生 丸山 隼

1. 活動背景

私は着地型観光を活用した地域づくりを目指し、中心市街地周辺地区で活動しています。1年目は着地型観光を目指すうえで必要となる「つながりづくり」を目標に活動に取り組みました。

2. 活動紹介

地域の方たちとの交流を目指し、松本大学と連携し、様々な事業に取り組みました。

① 田川地区「ケヤキプロジェクト」

田川地区渚本郷町会では、樹齢400年～600年のケヤキが10数本植えられています。このケヤキは、昔から地域住民の憩いの場として親しまれてきましたが、近年では、落ち葉の問題から地域を分断させるトラブルの種となっていました。

この問題を解決していくために平成26年度に松本大学において「ケヤキプロジェクト」が発足しました。現在、住民団体の「緑と景観を考える会」と松本大学が連携し、ケヤキの価値を見直し、「地域の宝」にすることを目標に活動しています。

ケヤキプロジェクトでは今年度、ケヤキを交流の場として活用することを考えました。その新しい試みとして、地域住民の方を講師として招き、昆虫講座やニジマスのかき取りなどを企画し、住民同士の交流を深めました。



←けやきっ子ひろば

講師は、自分の得意なことを参加者に教えました。この日は、昆虫講座の様子です。

その他にも、小学校の児童と一緒に落ち葉拾いを行いました。また、労金松本支店青年委員会の方たちとケヤキについての勉強会を行いました。

ケヤキの落ち葉拾い→

小学生が落ち葉を拾った後に、ケヤキ所有者の方がケヤキの説明をしている様子



今後の展望として、「ケヤキのまち」を着地型観光に結びつけることができなにか更なる研究をしたいと考えています。そのために、まず、まち歩きや勉強会等による資源の発掘や活用法を考えて行きたいと思います。

② 中央地区「あげつち買い物支援」

平成27年度から、入山辺地区の「こんな山辺にするじゃん会」の農家さんと連携し、中央地区の上土商店街で野菜などを販売するなど、両地区の交流を深めています。

今年度は、下町会館で入山辺アンテナショップを実施し、「するじゃん会」の方が野菜販売と移動式ピザ窯「じゃんドラ」の実演をしました。その他に、松本大学生がカフェあげつちを運営し、お客さんや地域の方と交流を深めました。



←入山辺アンテナショップ

するじゃん会と松本大学生による野菜市の様子

この活動を継続することで、中央地区と入山辺地区のつながりづくりになればよいと考えます。

3. 所感

今年度の取り組みを継続的に行い、取り組みを地域の資源として、着地型観光に結び付けたいと思います。地域の人たちや学生などを巻き込み、現在関わっている地域を繋げ広域的な連携となるように働きかけたいです。

地域づくりインターン活動紹介 波田地区

4期生 奥原 芳紀

1. 活動背景

松本市の西部に位置する波田地区は、市内で3番目に人口が多い地区であり、松本市との合併前から地域づくりに熱心な地区です。

しかし高齢者人口は市内35地区で最も多く、今後の急速な高齢化が危惧されており、実際に西部地域包括支援センターへの認知症や介護に関する相談件数も、急増しています。一方で、地域内でのつながりや交流も希薄になってきたという声も上がっており、地域のために活動している団体も、広く認知されていないという現状があります。

様々な講演や文献等から「人のつながり」が健康に作用することを学びましたので、それを応用しての地域づくり活動を展開していきたいと考えております。



手作りスイカランタン(波田さいさい祭)

2. 活動紹介

①地区の事業、催し、会議等に参加

最初の1年間は波田地区を知り、学ぶことを目的に、地区内の様々な事業や催し、会議等に参加することを、主な活動としておりました。



波田まちづくり協議会による、おしるこ振る舞い(波田地区文化祭にて)



ライトアップ HATA 点灯式



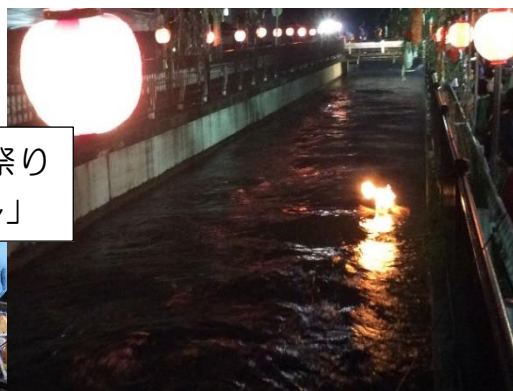
若澤寺史跡保存会の活動風景



クラブはたっこ 参加受付会場



4区・27区町会の夏祭り 伝統行事の「盆火流し」



波田商工会 ウォーキングコースの検討 21区町会から見下ろす松本平

県内で、全国で、それぞれ最優秀賞を受賞したお弁当 (波田みはらし味の会)

以上はほんの一部で、紹介しきれないほど多くのものに参加させて頂き、多くの方と出会い、貴重な経験となりました。



絵本の読み聞かせ

また、そのつながりから、公民館や福祉ひろばの事業などで、自分の特技を活かし、和太鼓体験や絵本の読み聞かせなど行いました。地区の中に顔を出すばかりでなく、僅かでも、波田の皆さんに喜んで頂けるのであればと考え、各事業にご協力・ご提案したものです。今後も、このような企画を地区の方と一緒につくれたらと考えております。



和太鼓の体験



② 地区ホームページ・Facebook ページの開設作業と運用

波田まちづくり協議会において、インターネットでの情報発信を目的に情報化委員会、ホームページ作業部会を発足。インターンとして事業に協力させて頂きました。ホームページの名称は一般公募を行い「はたみみ.net」に決定。2019年初頭のリリースを目標に、作業を続けて参りました。

Facebook ページは、同じく「はたみみ.net」の名称で、昨年10月に開設。更新内容の方向性を探りつつ、地区内の催しを中心に、記事投稿を続けております。

以上の取り組みで、波田地区内の新たなつながりの基盤を築ければと考えております。



Facebook ページ確認作業

③ 2年目以降の活動について



水輪花火大会

高齢化や地域内のつながりの減少が課題となる中、波田の皆さんにとっての交流の機会（新規イベントなど）を様々な形で企画することを考えております。「人のつながり」をきっかけに、波田の皆さんがより元気になるような活動の展開が目標です。